第3回　がんばれ西高！

山陰中央新報「ヤングこだま」欄
またまた登場！

3年5組の竹中彰君、今岡恵さん
中西透君の文章が載りました。

読者のひろば

ヤングこだま

松江西高校

小学生から高校生まで、若い人たちの意見を特集するコーナー「ヤングこだま」（日曜日掲載）です。今回も松江西高校の皆さんです。学校、学級単位での投稿を募っています。投稿希望の学校は「ヤングこだま」係（電話0852・32・3325）までご連絡ください。

感動与えた納棺師の仕事

3年　竹中　彰

先日、米アカデミー賞の発表・授賞式があった。その外国語映画賞を日本の映画「おくりびと」が受賞した。日本映画では初の快挙だったので、とても素晴らしいことだと思う。ではなぜ「おくりびと」は受賞できたのだろうか。

私は昨年、この映画を観賞した。映画としての出来は当然良い。だが、それだけなら他の映画にもいっぱいあった。要するに、この映画には外国の人たちに強い影響を与えるものがあった。それは納棺師という日本特有の職業。人間の生死に直面して、その懸け橋となる役割。そのすべてが外国人にとって新鮮で感動を呼んだのではないだろうか。

しかし、私はこの映画を見て感動した半面、少し悲しくなった。なぜなら私の祖父、祖母はもう他界してしまい、その時の対処の仕方は「おくりびと」のような美しいやり方ではなく、後にも心に残るようなものではなかった。そして、自分もこんなものだろうと思っていた。

しかし、この映画を見終わった瞬間、その思いがとても恥ずかしいことだと思い知らされた。あの映画のように丁寧に化粧をしたり、きれいな着物をまとわせれば良かったと後悔した。

私はこの「おくりびと」がアカデミー賞を受賞したのはうれしいことであり、この受賞が日本映画界にとって良い刺激となって、これからどんどん良い作品を作ってほしいと思う。そして、いつか私の父母がこの世から去る時には、私はこの映画のように送ると心に誓った。

危険性併せ持つ携帯電話

3年　今岡　恵

最近は携帯電話を持つ人が増えている。携帯電話の便利さを知っていく上で、一方で危険な物であるということを忘れている人も増えている。

着うたフルのサイトで「第3世界」があった。そのサイトを友達に見せてもらい、とても便利そうだったので、私も見ていた。しかし、しばらくして「第3世界」は違法配信をしていることが分かった。知らないうちに多くの人がだまされ、犯罪に巻き込まれていたのだ。

友達の間などでサイトを教え合ったりすれば、サイトはすぐにいろいろな人に回ってしまう。私の周りの人も、ほとんどの人が普通にそのサイトを使用していた。皆、だまされた、腹が立つ、などと言っていた。しかし、私はだまされた方も、高音質で多くの曲を無料で取ることができるということに疑問を抱いてもよかったのではないか、と後で思った。

今の世の中ではうそ、偽りに関する犯罪が多すぎる。だから何を信じていいのか分からなくなってきている人が大勢いるだろう。一番身近で気を付けなくてはいけない物は携帯電話だ。違法配信のサイトを使用してしまい、だまされた、腹が立つと言う前に、一人一人が携帯電話は危険なものだと理解し、警戒心を強めることが大切だ。

松江市の公共交通整備を

3年　中西　透

松江市に四年前合併された町に住んでいるが、とても公共交通について不便を感じている。

私が住んでいる町の公共交通はバスのみで、鉄道は通っていない。それも一時間おきで、休日は二時間おきである。また最終便は夜七時となっているのも早く感じる。かつては路線バスが家の近くまで通っていたが、乗車数の減少等で撤退し、現在は「コミュニティーバス」というものに替わっている。直接路線バスへの接続もできず、大変不便に感じる。そのため、通学は両親の自家用車に頼っていることが多い。

私はほぼ自家用車に頼って通学しているが、やはり非常に便利だと感じる。寄りたいところはすぐ寄れるし、頼めば好きな時間に帰れる。しかし、何か言いようのないむなしさも感じてしまう。また、周囲からはぜいたくと見られたこともあり、気分を悪くしたこともある。確かに高校生が毎日送迎をしてもらうのはぜいたくかもしれない。

また、自動車にはガソリン代をはじめ、自動車税や保険料等維持するのに出費が大きい。その上環境破壊を進めているので、やはり公共交通を整備すべきと考える。バス、電車など手段はたくさんある。自転車という手段もある。かつ環境も考えることも忘れてはならない。

今回も論点がしっかりしており、自分の意見を堂々と述べていて、好感が持てました。